



## 2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月8日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 8214 URL <http://www.aoki-hd.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	83,913	△2.1	1,499	10.2	533	△44.5	△1,056	—
2018年3月期第2四半期	85,675	3.7	1,359	105.8	959	88.7	163	6.7

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 △974百万円(—%) 2018年3月期第2四半期 217百万円(64.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	△12.22	—
2018年3月期第2四半期	1.87	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	225,827	143,576	63.5
2018年3月期	239,068	146,528	61.3

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 143,496百万円 2018年3月期 146,440百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	22.00	—	22.00	44.00
2019年3月期	—	29.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	31.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当22円00銭 記念配当7円00銭

2019年3月期(予想)期末配当金の内訳 普通配当23円00銭 記念配当8円00銭

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	196,280	△1.1	15,000	0.9	13,750	△1.8	7,000	△5.1	80.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年3月期2Q	90,649,504株	2018年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	4,124,002株	2018年3月期	4,085,322株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年3月期2Q	86,511,757株	2018年3月期2Q	87,018,467株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会資料について)

・当社は、2018年11月22日(木)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境等の改善が続き緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、米中貿易摩擦への懸念等による海外経済の不確実性などから、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は839億13百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は14億99百万円（前年同期比10.2%増）、経常利益は60周年記念行事費用及びパソコンの入れ替え等に伴う固定資産除却損の増加等により5億33百万円（前年同期比44.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は移転を含む店舗の閉鎖及び業態転換に伴う減損損失の増加等により10億56百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1億63百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

#### (ファッション事業)

AOKIでは、クールビズに最適な「動きやすさ・洗える」の機能を備えたスーツ、ジャケット及びパンツの商品群「楽動シリーズ」の展開を強化いたしました。レディースでは夏に最適な「洗える・防シワ・ストレッチ」の機能性を強化した「はたラク服」の展開及び日本製素材を使用した品質と「涼しさ・着心地」を追求した「サマーフォーマル」の提案を強化いたしました。店舗面では、Size MAXへの業態転換を含む3店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は571店舗（前期末574店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、スニーカーのような軽さと歩きやすさを追求したシューズ「スポットフィットRunning」を展開するとともに、多様化するフォーマルシーンに最適なコーディネートアイテムの提案を強化いたしました。店舗面では、2店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため3店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は136店舗（前期末137店舗）となりました。

これらの諸施策を実施しましたが、ビジネススタイルの変化や天候要因等により既存店が低調に推移し、売上高は446億44百万円（前年同期比3.6%減）、営業損失は15億81百万円（前年同期は営業損失10億57百万円）となりました。

#### (アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、施設ごとの強みやコンセプトを明確にした販促・PRの実施及びSNSの活用により集客を強化するとともに、多様化するウェディングのニーズやトレンドにお応えするため2施設のリニューアルを実施いたしました。しかしながら市場環境等の影響により施行組数が減少いたしました。

これらの結果、売上高は124億97百万円（前年同期比5.2%減）、営業利益は6億49百万円（前年同期比31.5%減）となりました。

#### (カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、人気キャラクター等とのコラボレーションキャンペーンを実施するとともに、お得なモーニングパックや夏限定メニューを強化し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、営業効率改善のため複合カフェへの業態転換を含め11店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は161店舗（前期末172店舗）となりました。

これらの結果、売上高は84億11百万円（前年同期比5.9%減）、営業利益は売上原価や販管費の減少により1億92百万円（前年同期は営業損失26百万円）となりました。

#### (複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、夏の冷やし麺フェアやSNSと連携したコラボレーションキャンペーンの提案を強化するとともに、超高性能パソコンを導入いたしました。また、オープンシートやカラオケ等の新設など13店舗のリニューアルを行い、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、カラオケルームからの業態転換を含む7店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため7店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は359店舗（前期末359店舗）となりました。

これらの結果、既存店が堅調に推移し売上高は183億77百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は17億47百万円（前年同期比59.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態に関する説明については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、季節的要因等により前連結会計年度末と比べ132億40百万円減少し、2,258億27百万円となりました。

流動資産は、売掛金が季節的要因等により74億29百万円、現金及び預金が法人税等の支払い等により63億95百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ131億59百万円減少いたしました。固定資産は、投資その他の資産の繰延税金資産等のその他が9億56百万円増加した一方、有形固定資産及び無形固定資産が減価償却等により10億4百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ81百万円減少いたしました。

#### (負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により53億28百万円及び未払法人税等が法人税等の支払いにより21億78百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ79億81百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により13億25百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ23億7百万円減少いたしました。

#### (純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失及び剰余金の配当の結果29億61百万円減少し、自己株式が取得等により77百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ29億52百万円減少しております。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）は、前連結会計年度末と比べ63億95百万円減少し、257億80百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、2億3百万円（前年同期と比べ56億94百万円減少）となりました。これは主に、仕入債務の減少額が53億28百万円、法人税等の純支出額が29億42百万円及びたな卸資産の増加額が16億72百万円となった一方、売上債権の減少額が74億29百万円及び減価償却費が40億89百万円となったことによるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、27億80百万円（前年同期と比べ8億93百万円減少）となりました。これは主に、新規出店及びリニューアル等に伴う有形固定資産の取得による支出が26億99百万円となったことによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、38億18百万円（前年同期と比べ4億22百万円増加）となりました。これは主に、配当金の支払額が19億3百万円、リース債務の返済による支出が14億50百万円及び長期借入金の約定返済による支出が3億25百万円となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は、通期連結業績予想の進捗に対して営業利益及び経常利益はやや上回りましたが、売上高及び親会社株主に帰属する四半期純利益は下回って推移いたしました。

通期の連結業績予想については、第2四半期累計期間の業績をベースに、今後の事業計画等を勘案し各事業の出退店計画の見直しを行った結果、2018年5月10日に公表しました連結業績予想について、売上高及び親会社株主に帰属する当期純利益を修正いたしました。新規出店は、ファッション事業で5店舗を7店舗に、カラオケルーム運営事業及び複合カフェ運営事業で6店舗を16店舗に期初から変更し、閉店計画についても修正いたしました。

2019年3月期 通期連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2018年5月10日公表)	199,100	15,000	13,750	7,400	85.56
今回修正予想(B)	196,280	15,000	13,750	7,000	80.91
増減額(B-A)	△2,820	—	—	△400	
増減率(%)	△1.4	—	—	△5.4	
ご参考(前期実績) (2018年3月期)	198,417	14,864	14,003	7,377	84.87

また、セグメント別の通期業績予想についても、以下のとおり修正しております。

【2019年3月期のセグメント別予想】

	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	117,100	26,320	17,460	35,440	196,280
前期比(%)	98.9	96.9	93.4	103.8	98.9
セグメント利益	8,750	2,400	950	2,200	15,000
前期比(%)	102.6	85.4	124.2	106.2	100.9

(注) セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、連結上の調整額です。

※ 上記の業績予想は、現時点で当社が入手している情報等に基づいて判断したものであり、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,175	25,780
売掛金	11,659	4,229
たな卸資産	26,007	27,680
その他	8,431	7,430
貸倒引当金	△35	△40
流動資産合計	78,238	65,079
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	60,585	58,504
土地	36,952	36,952
その他（純額）	14,131	15,394
有形固定資産合計	111,669	110,851
無形固定資産		
投資その他の資産	5,796	5,609
投資その他の資産		
差入保証金	7,973	7,877
敷金	20,610	20,663
その他	14,830	15,787
貸倒引当金	△50	△40
投資その他の資産合計	43,364	44,287
固定資産合計	160,829	160,748
資産合計	239,068	225,827
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,812	14,483
1年内返済予定の長期借入金	2,650	3,650
未払法人税等	2,593	415
賞与引当金	1,978	1,840
役員賞与引当金	123	43
その他	13,592	12,335
流動負債合計	40,750	32,768
固定負債		
長期借入金	36,475	35,150
役員退職慰労引当金	2,018	—
ポイント引当金	1,059	850
退職給付に係る負債	1,054	1,094
資産除去債務	6,032	5,939
その他	5,149	6,447
固定負債合計	51,789	49,482
負債合計	92,539	82,251

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,833	27,846
利益剰余金	100,299	97,338
自己株式	△5,376	△5,454
株主資本合計	146,039	143,013
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	588	637
退職給付に係る調整累計額	△187	△154
その他の包括利益累計額合計	401	483
新株予約権	87	80
純資産合計	146,528	143,576
負債純資産合計	239,068	225,827

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	85,675	83,913
売上原価	50,669	49,768
売上総利益	35,006	34,144
販売費及び一般管理費	33,646	32,645
営業利益	1,359	1,499
営業外収益		
受取利息	46	45
受取配当金	39	41
不動産賃貸料	283	276
その他	74	91
営業外収益合計	444	454
営業外費用		
支払利息	173	155
不動産賃貸費用	237	230
固定資産除却損	129	316
60周年記念行事費用	105	458
その他	197	260
営業外費用合計	844	1,420
経常利益	959	533
特別利益		
投資有価証券売却益	—	27
新株予約権戻入益	—	7
特別利益合計	—	35
特別損失		
減損損失	337	1,524
固定資産売却損	38	—
関係会社整理損	—	444
災害による損失	—	48
特別損失合計	376	2,017
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	582	△1,448
法人税、住民税及び事業税	725	325
法人税等調整額	△305	△717
法人税等合計	419	△391
四半期純利益又は四半期純損失(△)	163	△1,056
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	163	△1,056

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	163	△1,056
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	49
退職給付に係る調整額	52	32
その他の包括利益合計	54	82
四半期包括利益	217	△974
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	217	△974
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	582	△1,448
減価償却費	4,195	4,089
減損損失	337	1,524
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	49	△2,018
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△86	△208
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	132	89
受取利息及び受取配当金	△85	△86
支払利息	173	155
固定資産売却損益(△は益)	38	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△27
関係会社整理損	—	444
売上債権の増減額(△は増加)	6,404	7,429
たな卸資産の増減額(△は増加)	△165	△1,672
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,672	△5,328
未払消費税等の増減額(△は減少)	73	△1,228
その他	590	1,515
小計	7,568	3,228
利息及び配当金の受取額	65	71
利息の支払額	△172	△154
法人税等の支払額	△2,459	△3,818
法人税等の還付額	895	875
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,897	203
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,637	△2,699
無形固定資産の取得による支出	△202	△294
敷金及び保証金の差入による支出	△266	△481
信託受益権の純増減額(△は増加)	716	769
その他	△282	△75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,674	△2,780
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	4,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,825	△325
リース債務の返済による支出	△1,132	△1,450
自己株式の取得による支出	△517	△138
配当金の支払額	△1,920	△1,903
その他	0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,395	△3,818
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,171	△6,395
現金及び現金同等物の期首残高	28,608	32,175
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,436	25,780

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

自己株式の取得

当社は、2018年1月31日開催の取締役会決議に基づき、自己株式を83千株取得した一方、2018年6月27日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式を45千株処分いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が77百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が5,454百万円となっております。

(会計方針の変更)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社及び連結子会社は、2018年6月開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給について承認されました。

これに伴い、役員退職慰労引当金を全額取り崩し、打ち切り支給の未払額1,680百万円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	46,287	13,177	8,936	17,273	85,675	—	85,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10	10	2	—	23	△23	—
計	46,298	13,187	8,939	17,273	85,698	△23	85,675
セグメント利益 又は損失(△)	△1,057	947	△26	1,099	963	396	1,359

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額396百万円には、セグメント間取引消去2,126百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,730百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ144百万円、10百万円、104百万円及び77百万円です。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	44,642	12,481	8,411	18,377	83,913	—	83,913
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	16	0	—	18	△18	—
計	44,644	12,497	8,411	18,377	83,931	△18	83,913
セグメント利益 又は損失(△)	△1,581	649	192	1,747	1,007	491	1,499

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額491百万円には、セグメント間取引消去2,201百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,710百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の移転を含めた閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続的にマイナスとなる営業店舗及び転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ168百万円、1,013百万円及び342百万円です。